

# 「脱・融資」経営 収益力カギ

銘柄	価格	変動	銘柄	価格	変動
1-F	740	775	760	8.5	763.9
2-F	440	440	464	473	12.4
3-F	812	816	812	812	72.11
4-F	830	830	820	820	210.2
5-F	480	493	460	470	4.74
6-F	128	129	126	1.1	210.8
7-F	512	515	498	484	318.5

A3版  
F2(1)

## 新生銀上場

新生銀行は十九日、経営破たんまで一時国有化された後、再び上場した。大手銀行と二線を隔す企業分野の「脱・融資」経営が評価され、株式市場では順調な値上がりとなった。先行きには不透明感を指摘する向きもある。岡が保有する優先株を処分し、新生銀が国の支配から完全に脱するにまだ時間がかかる。市場の評価を保つためには収益力の維持・強化が課題となる。(一面要約)



東証上場後、記者会見する八城・新生銀社長①

### 手数料収入 厚い自己資本 振れ大きく 企業再生に力

新生銀行は個人金融業務の経営戦略だ。八城政基社長はインタビューで「企業買収で資産規模を伸ばすことも考えられ」と述べ、企業再生に力を入れる意向を示した。

### 残り国の関与 経営にタガ

高は六兆五千億円から一兆四千億円に圧縮。貸出残高も七兆七千億円から三兆五千億円に減った。代わりには中核に据えたのが企業買収の仲介や証券化、金融派生商品といふ手数料ビジネス。昨年九月中期間には非金融収益が全体の五割を突っ越した。昨秋に傘下のファイナンドが破たんしたリッパードを手を取り、欧米の優良銀行(一・三%)に迫る。ただ投資銀行業務は景気

## 一時国有化銀初の再上場

総額が大きいため「買いぞびれた機関投資家が「買値に上る」(株大手証券)と需給面での下支えを予想する関係者も多い。

## 時価総額1兆円超す

一時国有化された銀行が再上場するのは新生銀行が初めて。高い株価がついてきたことで、二〇〇五年度中をメドに再上場準備しているおおぞら銀行、リップルウッドなどが

木根資幹「リッパード」  
ハズレポイント  
1. 100%株式  
10億5,000万株(発行済株式99%保有)  
1/3(4億7,600万株)売却  
売却価格=525円  
=2,500億円の利益(1/3利益配分)  
残りの2/3(8億7,400万株)保有  
807円(1/3利益) / 1株  
=2,500億円の利益(含み益)

- ①「金融再生法(98.10.10)」-一時国有化
- ②「早期健全化法(98.10.16)」-公的資金投入

新生銀行に投入された公的資金(金融再生法から)

内容	投入額
1. 債務超過の穴埋めなど	約3兆2,200億円
2. 一時国有化中の資産劣化分	約3,500億円
3. 1,000万円以下分の現金貸渡	140億円
4. 債権回収(98.10.16)	約8,800億円
5. 債権回収の担保(98.10.16)	約2兆2,000億円
6. 1998年3月の資本注入	1,200億(17,060億)
7. 旧長銀売却後の資本注入	2,400億円
8. 新長銀に基づく不良債権の回収(98.10.16)	約8,530億円
9. 公的資金投入(98.10.16)	約2兆2,000億円

国保有(優先株譲渡権を担保、残余配当) 公的資金: 6億株(約1兆円) (9700億円)

4兆円(5兆円)の損失に100億(04.2.20) 100億(04.2.20)の損失に100億(04.2.20) 穴埋めに使われ、3兆7,000億(04.2.20)の損失に100億(04.2.20) 整理目的で債権の回収が期待されている

吉元志  
「新生銀行は(旧)長銀(98.10.16)と(新)長銀(98.10.16)の合併で、当時の柳川大蔵相が「新生銀行は(旧)長銀(98.10.16)と(新)長銀(98.10.16)の合併で、当時の柳川大蔵相が「新生銀行は(旧)長銀(98.10.16)と(新)長銀(98.10.16)の合併で、当時の柳川大蔵相が」

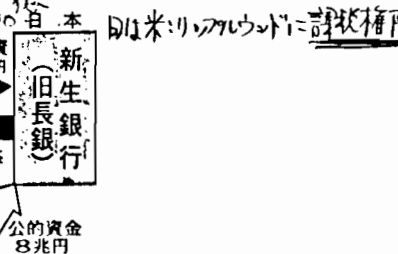
「脱・融資」経営 収益力カギ  
10億(04.2.20) + 3億株(400円) = 1200億  
2. 削減した減価償却と税金控除  
3. 削減した減価償却と税金控除  
4. 削減した減価償却と税金控除

株価トップクラスの銀行の姿

	新生	三菱東京
自己資本比率	20.58%	12.44%
不良債権	1542億円	1兆8572億円
不良債権比率	4.1%	3.8%
最終利益	650億円	4250億円
総資産	6兆5088億円	10兆7110億円
従業員	2364人	2万1154人
国内店舗	29店舗	302店舗

(注) 2003年9月末。最終利益は当期予想。新生の不良債権比率は総と信託に占める。

旧長銀時代に起因する訴訟に関しては、国有銀行を買戻した際の営業譲渡契約で五十億円を超す損失は預金保険機構が補償するとして定めている。今回の訴訟はその適用対象になるか、同機構と争いになる可能性もある。



## 市場関係者の見方

個人投資家買い過熱  
野崎浩成HSC証券シニアアナリスト 十九日の株値は、先行きの動きを、期待感が一部で広まっている。一方で、売出しされた株式を回収するが、個人投資家は慎重である。国内機関投資家は慎重である。国内機関投資家は慎重である。

## 収益の安定性乏しく

い。貸し出しの圧縮に伴って顧客も縮小しているだけに、金融ノウハウの活用で、これまで収益力を高めるのが課題だ。元来ファイナンス・キャピタル・アセット・マネジメント執行役員、株主は活版屋のイメージが、今後続くかどうかは不明。日本の株主は将来の東証株価値への期待に伴う感念などから、一部の投資家が引く張ったように思う。

